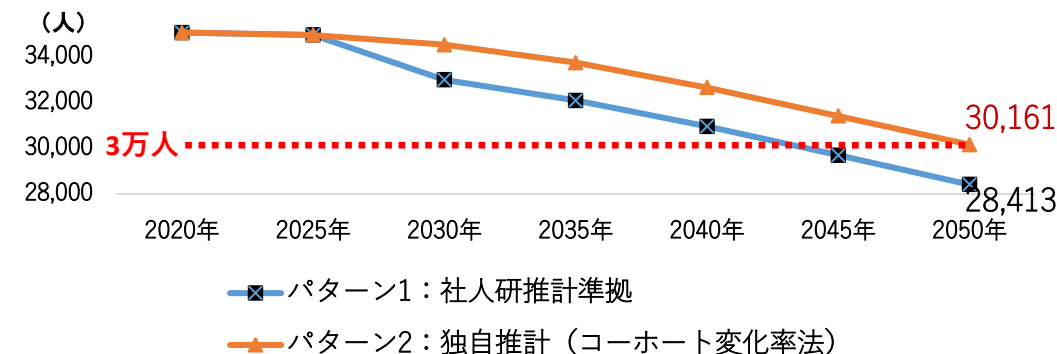


■将来人口推計（P40）

将来人口推計にあたり、パターン1の基準人口を更新し下記の推計を行った。
推計の結果、2050年にはパターン1では28,413人となり、パターン2では30,161人となり、独自推計①の方が1,748上回っている。

パターン1	国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来人口(平成30年)」に準拠（基準人口は国勢調査）
パターン2 (独自推計①)	(コーホート変化率法)同じ年に生まれた人々の集団について、過去の実績人口の動勢から「変化率」算出し、それに基づき将来人口を推計（基準人口は住民基本台帳）



■第3次広陵町人口ビジョンに掲げる目標（P47、48）

人口減少の克服と地域の活性化に向けた今後のまちづくりの主要課題を整理し、2050年に総人口3万人の目標達成のため、第3次広陵町人口ビジョンにおいて4つの目標掲げる。

4つの目標

- 目標1 誰もが安全・安心に暮らし続けられるまち
- 目標2 新しい命を育み、次世代が輝くまち
- 目標3 稼ぐ力を高め、地域が躍動するまち
- 目標4 まち、ひと、しごとを支え高めるDX推進のまち

第5次広陵町総合計画（重点プロジェクト）
の実施及び目標達成

2065年に3万人を維持

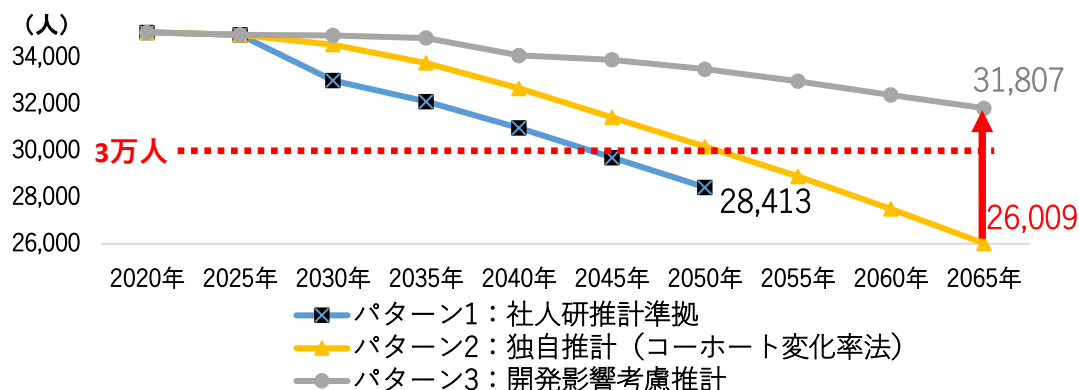
■4つの目標実現による将来人口の展望（P49）

第5次広陵町総合計画（重点プロジェクト）を着実に推進し、20歳から39歳の若年人口を中心により多くの人々から「住み続けたい・住んでみたい」と選ばれる魅力のあるまちの実現を目指すことで、他地域からの人口流入で令和47（2065）年において人口3万人が維持されることを将来展望（パターン3）として設定する。※社人研の推計値は令和5年(2023年)推計から2050年まで

パターン3では下記の政策効果を要因にして推計

宅地造成に関する計画(予想含む)、企業誘致に関わる構想、特徴的な子育て政策などの政策効果について仮説設定を行い推計

○パターン3を追加した将来人口推計



○パターン3の年齢階層別人口の推移

